

研究・調査報告書

報告書番号	担当
163	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Global burden of disease and injury and economic cost attributable to alcohol use and alcohol-use disorders. アルコール使用及びアルコール使用による障害に起因する疾病、外傷、および経済的費用の世界的負担について。	
執筆者	
Rehm J, Mathers C, Popova S, Thavorncharoensap M, Teerawattananon Y, Patra J.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Lancet. 2009 Jun 27;373(9682):2223-33.	
キーワード	
飲酒、飲酒関連障害、経済負担	
要 旨	
目的： 飲酒は慢性疾患や外傷の重要な危険因子として特定されてきた。この初版では、世界 10 カ国においてアルコールに起因する死亡率および疾病の負担について定量化した。世界的にアルコール摂取が抑制されてきているにも関わらず、依然飲酒は世界各国で習慣となっている。今回は、発表されている研究の批評に基づいて、アルコール暴露とアルコール使用による障害の有病率を評価し、また飲酒による経済的負担についても推定を行った。	
方法： アルコールと因果関係のある主要な疾患カテゴリーを特定後、性別、年齢および WHO 区分を用いて寄与割合を推定した。更に、いくつかの国々を選択しアルコールによる社会的負担を比較した。	
結果： 低収入の国々では、経済的な富と飲酒の間に強い関連があり、国民総生産 GDP が高い程総飲酒量は増加し、また禁酒者が少なかった。健康に対する飲酒による影響は有害であり、世界全死亡のうち 3.8%、また世界的な障害調整生存年数 DALY の 4.6%に寄与していると推定された。疾病負担については、アルコール消費量の平均値とかなり関連があり、貧困や社会から疎外された集団で最も関連が大きかった。貧困の集団および低収入の国々では、高収入の国、集団と比べて、アルコール消費単位あたりの疾病負担がより大きかった。アルコールに関連した費用負担は、中から高収入の国々において、治療費に加え社会的被害が主な割合を占め、GDP の 1%以上に達した。	
結論： 飲酒は回避可能な主要な危険因子の一つであり、アルコールに関連した負担、費用を減らすために、早急に行動をとるべきである。	